

13 指揮者のために。ダビデの賛歌

13:1 主よ。いつまでですか。あなたは私を永久にお忘れになるのですか。いつまで御顔を私からお隠しになるのですか。

13:2 いつまで私は自分のたましいのうちに思い計らなければならないのでしょうか。私の心には、一日中、悲しみがありません。いつまで敵が私の上に、勝ちおごるのでしょうか。

13:3 私に目を注ぎ、私に答えてください。私の神、主よ。私の目を輝かせてください。私が死の眠りにつかないように。

13:4 また私の敵が、「おれは彼に勝った。」と言わないように。私がよろめいた、と言って私の仇が喜ばないように。

13:5 私はあなたの恵みに抛り頼みました。私の心はあなたの救いを喜びます。

13:6 私は主に歌を歌います。主が私を豊かにあしらわれたゆえ。

「主よ。いつまでですか。」とは、詩篇によく出てくることばです。私たちも同じで、我慢、忍耐、苦しみ、ストレス、乏しさ、不安、逆境などが、いったいいつまで続くのかと思うときがあります。どんなに大変でも、それが終わる見通しがあれば、希望もあるのですが、なければいっそう苦しくなります。

そんな時は主に訴えるしかありません。私たちも「答えてください。」「輝かせてください。」と主に訴えましょう。そのときに希望が与えられます。それは状況の変化に一喜一憂するような、不安定な希望ではありません。永遠普遍の神様を根拠とする希望です。「喜びを歌います。」と、希望を表しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

